

## 第20回日本未病システム学会学術総会を振り返って



会長 福生吉裕

2013年秋、11月9日10日と第20回日本未病システム学会学術総会を学術総合センター（一橋会館）で開催させて頂きました。まず、この学術総会を支えて応援して頂きました会員の皆様に心より感謝申し上げます。

1995年に東京で東京未病研究会として産声を上げて以来、未病が市民権を得るよう努力を続けてまいりましたが、ようやく新たなステージに入った思いです。未病という「健康と病気の間を科学する」というメッセージを旗印に幅広い分野の研究者達が集まり、チーム未病として撒いた種に花が咲いたのを実感させて頂きました。

時代は少子超高齢時代に入り、これまでの医療・介護システムでは各所に崩れが生じてまいりました。新たな安定の受け皿として未病への期待が高まって来ているのを会場各地で感じました。

今回、日本医学会会長の高久史麿先生のご支援を得て、大会開催に大いに弾みがつきました。医学界も未病を応援してくれている時代となったわけです。

“超高齢社会における未病イノベーション”をテーマに将来に向けての未病領域の提示をさせて頂きました。二日間にわたる学会の水平軸として各部会より医学、薬学、臨床検査、栄養それに東洋医学部会によるサミットの5つのシンポジウムを組むことが出来ました。さらにスポーツ運動界からの新しい働きかけもありました。縦軸としてはこれからの超高齢社会の街造りに未病の活用をめざす千葉県柏市で現場を仕切る辻哲夫教授に。行政における動きだした未病特区の紹介を神奈川県黒岩知事をお願い致しました。ICT 社会と未病のソーシャルキャピタルを金子郁容教授に、児童からの未病教育の重要性を篠宮先生に。さらに未病の源流を共にする韓国、中国から高齢社会の現状と対策など担当学者にご披露頂きました。これらが一つの空間でぶつかり合い集合知としてアフバーベンすることを企画いたしました。

最後にキューバのサルサと俳句・川柳のコラボレーションを体感して頂き未病文化を楽しんで頂けたら主催者として幸いです。